

体液 - CSF (脳脊髄液)



特別な取扱いを要します

CSFは、以下を行う必要があります（それ以外は受理されません）

- 集細胞遠心装置による調製
- 血球計数器による細胞数計数（訓練を受けた個人により手動で実施）

血球計数器による細胞数計数および集細胞遠心装置による調製が利用可能でない場合、CSFサンプルをリファレンスラボに送付してください。

体液サンプルの採取

CSFサンプルはEDTAチューブと赤いキャップのチューブ（CSFが十分に残っている場合）に速やかに分注する必要があります。

細胞遠心分離の調製

集細胞遠心装置は、リファレンスラボで使用される特殊な遠心分離機で、洗浄液などの細胞密度が非常に低い液体をスライドの小さな円形領域に濃縮するために使用されます。この調製手法は、細胞の完全性を維持するのに役立ち、病理専門医による評価のために細胞が利用可能であることを確実にします。

集細胞遠心装置による調製

1. 鉛筆でCSF用のスライドにラベル付けします。
2. 集細胞遠心装置のメーカーの指示に従って、ファネル（漏斗）、スライド、クリップ器具を準備します。
3. ファネルにCSFを注意深く200uL（最低100uL）ピペッティングします。
4. メーカーの指示に従って、サンプルを遠心分離します。
5. スライドを取り除き、乾燥させます。
6. 染色してスライドにカバーガラスを付けます。

提出

以下を含めるようにしてください

- 関連する病歴
- 体液の説明
- 血球計数器による手動での細胞数（RBCとWBC）
- 細胞遠心分離で調製されたスライド

スキャンする際

- スライドのサンプル面がスキャナーレンズ方向に上を向いていることを確認します
- スライドロックがかかっていることを確認します
- スキャナーの移動を妨げるものが周囲にないことを確認します（作動中の遠心分離機を含む）